

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

鳥 取 県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北条町立北条中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	2	10	24
生徒数	79	100	87	4	270	

研究の概要

1. 研究主題

<p>心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成 ～小・中連携を通して学習の礎を築く～</p> <p>*テーマ設定の理由 義務教育で身につけさせたい学習の基本的な力と相手の立場に立って考え、行動する力を身につけさせれば、児童・生徒が生涯学び続けようとする礎を築くことができると考えた。 小・中の教師が、相互に教育実践の一部を理解しあい、合同の連絡会・催し・交流授業などを実施すれば、教師の学習指導の改善につながり、上記の学習の基本的な力がついていくと考えた。 小・中連携をすれば、相互の学びあいが広がり、学び続ける力につながると考えた。</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1・3年生(数学-少人数指導) 理解に差が出やすい教科であり、きめ細かな指導を行うため 全学年(百マス計算-基礎学力向上) 基本的な演算の力をつけ、学習意欲を高めるため</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 小・中連携を通じた取り組みを試みる 仮説 さまざまな交流の試みを通して、教師側の意識改革を図ることができるであろう 研究内容・方法 少人数指導 ・1年生数学(1クラスを均等に2つに分け、人数を少なくして指導の徹底を図る) ・3年生数学(基本中心のコースと応用中心のコースとに分け、個に応じた指導を目指す) 小・中連携 ・小・中交流授業 小 中 学活・理科・音楽(10月と2月) 中 小 図工・英語・音楽(10月と2月) ・総合的な学習の合同発表会(10月と2月) (小学生は中学生の調べ方や方法を学び、中学生は発表の方法やアイデアを学んで、お互いの刺激とする) ・読み聞かせ隊(中学生の本の読み聞かせボランティア活動)</p>
--------	--

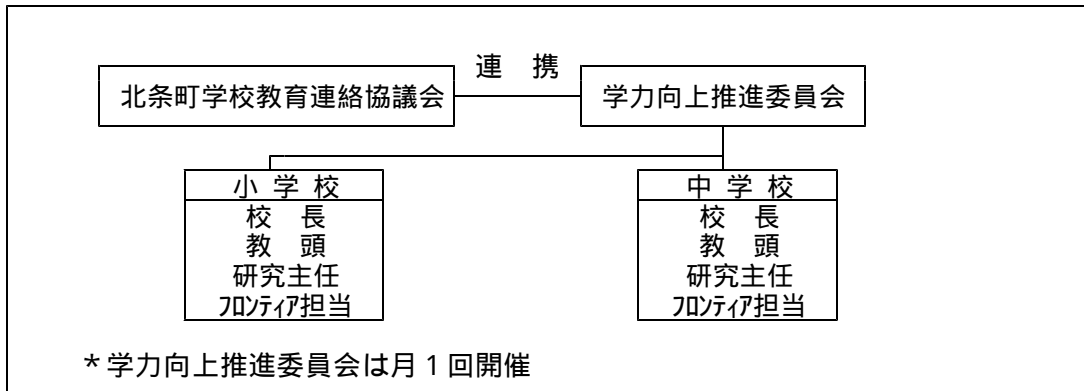
	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中同日公開参観日（10月） （地域の方へ学校を公開し、小中同じ時間に公開することで、より多くの保護者や地域の方の理解を得ることを目的とした） <p>独自の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書（活字に親しみ、落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートさせる） ・週末マイプラン（土・日の過ごし方を生徒に意識させ、家庭学習の定着を図る） ・聞き取りテスト（学習の基本となる「聞く力」や「情報を的確に掴み取る力」の育成を図る。月1回実施） ・各教科における進級テストやドリル活動の推進 （基礎・基本の定着を図ると同時に、授業を始める雰囲気づくりや業授規律の確立につなぐ）
--	--

平成 15 年度	<p>テーマ 小・中連携を通じた取り組みを広げる</p> <p>研究の見通し 教師の授業改善が進み、広がることにより、学習活動に対する児童生徒の意欲が高まり、学びあいが広がり高まるであろう</p> <p>研究の内容・方法 少人数指導 （数学の実践をさらに深め、指導法の工夫を行う）</p> <p>小・中連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中交流授業 （教科を決めて、小中合同TTの授業回数を増やす） ・総合的な学習の合同発表会 （交流学年を広げ、発表することを意識した調査活動やまとめ活動の定着を図る） ・読み聞かせ隊 （小学校から中学校への読み聞かせも取り入れ、相互交流とする） ・相互授業参観 （授業の参観と授業研究会の枠を増やし、互いの指導方法を研究し、共通して取り組むことができる基本的な学習習慣の定着を図る） ・同一公開参観日 （地域の方へ学校を公開し、小中同じ時間に公開することで、より多くの保護者や地域の方の理解を得ることを目的とした。） <p>独自の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書（読書の量を増やすとともに質的向上を目指す） ・授業始めのドリル （国、数、英の進級テストや社、理の5分間テストを全学年で作成し、基礎・基本の定着を図る） ・評価と指導の一体化と評価を生かした指導法の改善 （評価基準の見直しと改善を行い、評価を生かして個に応じた指導を行いながら、授業の改善を図る） ・百マス計算の取り組み （毎朝取り組むことで、学習のウォームアップになり、基礎的な演算の力もつけることを目指す） ・一次方程式を全員ができるようになる取り組み （段階を踏んで指導しやすく、機械的な操作で答えが出る領域であることと、出来たという喜びを味わわせることで学習意欲の向上を図ることができる）
----------------	---

	<p>テーマ 小・中連携を通じた取り組みを深め、まとめる</p> <p>研究の見通し 学習の基礎的な力や相手を思いやる心が育ち、それが教師、児童生徒ともに生涯学び続ける礎となるであろう</p> <p>研究内容・方法 少人数指導</p>
--	---

平成 16 年度	<p>(数学での取り組みを重ねると同時に、他教科(英語等)での少人数指導の試みを行う)</p> <p>小・中連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業 <p>(年度当初、時間割の調整・工夫をし、1単元が集中的にTTができるような試みをする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の共通化を図る <p>(授業前後のあいさつ・学習の準備物・家庭学習の3点について、小中共通の目標とし、発達段階にあわせて指導する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の発表会 ・読み聞かせ隊 ・相互授業参観 ・同一公開参観日 <p>独自の取り組み(3年目としてこれまでの成果と課題を検討し、取り組みをより深める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書 ・ドリルを中心とした基礎・基本の定着 ・評価を生かした指導法の改善 ・家庭との連携を強化して、学習習慣の定着化を図る
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>少人数指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年数学で、クラスを均等に半分に分ける少人数指導を行った。その結果、生徒一人に関わる時間が増え、きめ細かな指導ができるようになった。具体的には、正比例・反比例などの数量関係の分野で全国平均との比較の数値が向上している。(92 102) <p>小中連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流授業を回数を増やして取り組むことで、お互いの授業内容や指導の方法が分かるようになってきている。内容面では、中学の学習で大切な部分の学習に中学の教師が関わることで、子供たちは学習のつながりがよく分かるようになってきた。例えば、小学校のローマ字の指導を中学の英語教員が行うと、ローマ字の必要性が子供たちによく伝った。 ・総合的な学習の発表会で発表するという目標が定めてあるため、調べ学習の内容や発表の方法をより分かりやすいものにしようと、児童生徒が工夫をするようになってきている。 <p>独自の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書は、生徒の間に完全に定着しており、全員が静かに読書に取り組んでいる。朝の時間を静かに過ごすことは授業に向かう気持ちを作る効果も生み出している。 ・各教科の授業開始後のドリルは、5教科全てで行われている。進級することを目指したテストや復習のためのテストに真剣に取り組む姿が見られるようにな

った。また進級の度合いが意欲を高めることにもつながっている。

- 平成15年5月より、+・-・×の3種類の百マス計算を1種類ずつ、ほぼ毎日行った。続けて行うことでどの計算も2分以内に終わるようになり、計算力がついたと感じる生徒が7割以上になっている。右の表は、余りのある割り算100題の計算のタイムと誤答数の変化を示している。タイムが約1分15秒短縮し、1年生では誤答数も減少している。

	タイム		誤答数	
	7月	12月	7月	12月
1の1	12:33	12:02	6.9	6.0
1の2	14:34	12:36	8.6	5.9
1年全体	13:37	12:19	7.8	6.0
2の1	11:57	10:27	4.4	5.3
2の2	11:55	11:14	5.6	5.6
2の3	12:19	11:05	5.3	4.0
2年全体	12:03	10:55	5.1	5.1

毎日の計算の積み重ねが、一番難しい割り算の計算力にも、良い結果をもたらしている。

- 一次方程式の取り組みでは、4問のミニテストに合格するために教えあいをするようになっている。ミニテストに合格しなかった生徒は、教えてくれる友達（ミニティーチャー）をつれて再度挑戦することになっており、何度も挑戦を続けている。「できた!」という気持ちが、他の教科への意欲につながる取り組みになっている。

2. 今後の課題

2年間で試みた方法を総括して、授業展開や指導方法の工夫改善に全職員が取り組めるような体制づくりが必要である。少人数指導やT・Tなどの指導方法を継続しながら研究をさらに深め、子供たちへのきめ細かな指導を図りたい。家庭での生活習慣が学力に関係があることを啓発し、家庭生活を見直すとともに、生活リズムの確立を図るよう、保護者に呼びかける。

学力把握のための学校としての取組

教研式学力診断テストを教科ごとに細かく分析
各教科で行われる中部地区主催の診断テストで到達度を分析
鳥取県基礎学力調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

第1回鳥取県中部地区学力向上推進協議会	平成15年10月2日
第2回鳥取県中部地区学力向上推進協議会	平成16年1月27日
鳥取県教育研究発表会	平成16年2月10日
ホームページ上で研究活動の報告を予定	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|---------------------------|----------------------------|----------|-------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下
7～9学級
13～15学級 | 4～6学級
10～12学級
16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
その他 | T・Tによる指導 | | |
| 【研究教科】 | 国語
外国語
保健体育 | 社会
音楽
その他 | 数学
美術 | 理科
技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | 無 | | |